

# Hello! FUJISEI

No. 184

厚生労働省の「平成23年度国民医療費の概況」によると、平成23年度の国民医療費は38兆5850億円、前年度の37兆4202億円に比べ1兆1648億円、3.1%の増加となっています。

人口一人当たりでは30万1900円で、前年度の29万2200円に比べ3.3%増でした。

年齢階級別では、0～14歳は2兆485億円（6.4%）、15～44歳は5兆1258億円（13.3%）、45～64歳は9兆5261億円（24.7%）、65歳以上は21兆4497億円（55.6%）でした。

人口一人当たり国民医療費は、65歳未満は17万4800円、65歳以上は72万9000円で、そのうち医科診療医療費では、65歳未満が12万7000円、65歳以上が53万6900円、薬局調剤医療費では、65歳未満が3万4000円、65歳以上が12万2700円でした。

医科診療医療費を主傷病による傷病分類別にみると、「循環器系の疾患」5兆7926億円（構成比20.8%）が最も多く、次いで「新生物」3兆6381億円（13.1%）、「呼吸器系の疾患」2兆1707億円（7.8%）、「筋骨格系及び結合組織の疾患」2兆898億円（7.5%）、「内分泌、栄養及び代謝疾患」1兆9928億円（7.2%）、となっています。

65歳未満では「新生物」1兆5168

## 止まらない！ 国民医療費の伸び

# 65歳以上が21兆円超 全体の55%を占める

億円（12.8%）が最も多く、65歳以上では「循環器系の疾患」4兆3741億円（27.4%）が最も多くなっています。男女別にみると、男性では「循環器系の疾患」「新生物」「呼吸器系の疾患」が多く、女性では「循環器系の疾患」「新生物」「筋骨格系及び結合組織の疾患」が多くなっています。

### 国民医療費の構造

厚生労働省「平成23年度 国民医療費の概況」

